

緑創

全国林業グループコンクール ……1
 全林研通常総会 ……6
 第50回 全国林業後継者大会 ……7
 全林研執行部から ……10
 お知らせ ……12



全国林業グループコンクール 農林水産大臣賞 は愛媛県

「中予地区林業研究グループ連絡協議会」



農林水産大臣賞を受賞した「愛媛県 中予地区林業研究グループ連絡協議会」へのオンラインによる表彰。

令和3年度の全国林業グループコンクール(主催/全国林業研究グループ連絡協議会、協賛/全国林業改良普及協会)が、3月10日、東京都渋谷区の国立オリンピック記念青少年総合センターで、オンラインと集合により開催され、地区予選で選ばれた6グループが日頃の活動を発表しました。

最優秀である農林水産大臣賞には、中国・四国ブロック選抜の愛媛県・中予地区林業研究グループ連絡協議会が選ばれました。林野庁長官賞ほかの入賞グループは下表のとおりです。

なお、審査員には安村直樹氏(東京大学大学院准教授 審査委員長)、富山洋氏(全国森林組合連合会 代表理事専務)、大塚生美氏(森林総合研究所東北支所主任研究員)、中山聡氏(全国林業改良普及協会 専務理事)の4名にお願いしました。

令和3年度全国林業グループコンクール入賞一覧

愛媛県 中予地区林業研究グループ連絡協議会	農林水産大臣賞
林野庁長官賞	
岩手県 盛岡広域森林組合青年部	
埼玉県 秩父森づくりの会	
富山県 高岡地区林業研究グループ協議会	
滋賀県 東近江市永源寺林業研究グループ	
宮崎県 門川町林業研究グループ連絡協議会	
全国林業改良普及協会会長賞	
山形県 庄内林業研究会	
茨城県 特定非営利活動法人 里山を守る会	
福井県 特定非営利活動法人 森林学校・森とこ	
和歌山県 根来山げんぎの森倶楽部林業研究会	
徳島県 野根川の自然と水資源を守る会	
大分県 赤根林業研究グループ	
北海道 京極町林友会	
青森県 東青もりづくりの会	
宮城県 宮城県林業研究会連絡協議会	
秋田県 F.W.O.G.A.C.H.I	
福島県 田人林業研究会	
栃木県 栃木市林業振興会	
群馬県 多野東部林研	
千葉県 千葉県林業研究グループ連絡協議会 千葉支部	
東京都 奥多摩林研	
神奈川県 湘南二宮竹の会	
新潟県 松代やぶこさぎの会	
石川県 穴水町林業研究会	
山梨県 上野原市林業研究会	
長野県 こまゆみ遊林会	
岐阜県 下呂林業研究クラブ	
静岡県 賀茂林業研究会	
愛知県 ヤマとナデシコ	
三重県 亀山市林業研究会	
京都府 福知山地方林業研究会	
兵庫県 村岡林業研究グループ	
奈良県 奈良県林業研究グループ連絡協議会	
鳥取県 八頭町林業研究会	
島根県 大田市林友会	
岡山県 岡山林業未来会	
山口県 萩市福栄地域林業振興会	
香川県 五名里山を守る会	
福岡県 嘉麻市林業研究会	
佐賀県 富士町林業研究会	
長崎県 佐世保林業研究会	
熊本県 旭志林業研究グループ	
鹿児島県 肝付町特用林産物研究会	
沖縄県 宮古森林組合林業研究グループ	

賞 農林水産大臣賞

●中予地区林業研究グループ連絡協議会(愛媛県)

当協議会は、単位林研7団体(男性5団体、女性2団体)で構成されており、会員数61名(男性40名、女性21名)で、県の出先機関や関係団体と連携した活動を行っています。

主な活動内容としては、①北条



北条女性林業研究グループの安全講習会等

女性林業研究グループの積極的な活動支援、②高校生を対象とした進路探究現場実習、③林業事業体と連携した技術の伝承を目的として、架線系集材技術研修会の開催、ICTを活用した森林資源量取得研修会、④ミツマタ植栽による獣害対策実証試験、⑤トチバニンジン(チクセツニンジン)商品化へチャレンジなどに取り組んでいます。

まだまだ活動は十分ではありませんが、地域の活性化に向け継続し地道な活動に取り組み、またチャレンジ精神をもって時代のニーズに応えた新しい技術についても臆さず取り入れ学習し実践することにより、地域森林の健全化を図りたいと思います。



伊予農業高校就業体験実習



ミツマタ植栽実証試験



架線系集材技術研修会



トチバニンジン植栽実証試験

賞 林野庁長官賞

●盛岡広域森林組合青年部(岩手県)

当青年部は、現在、会員数23名(うち男性:22名、女性:1名)で、平均年齢35歳と比較的若い森林組合職員中心に構成され、盛岡市の森林公園を活動の場所として、子どもたち対象の森遊びを提供する「お山食堂」のサポート、きのご栽培で考える「森づくり」などの活動を行っている。

ている中で、スギ林の活用として「オオイチョウタケ」プロジェクトに取り組んでいます。
①オオイチョウタケ栽培の普及により、「山主」さんたちに、面白い話題を提供して、スギ林の魅力や有効活用を広げ、事業や雇用の創出を狙うこと。



盛岡広域森林組合青年部の仲間たち

②オオイチョウタケ栽培を通じた、キノコで「SDGs」をテーマに、森林環境教育の推進を図り、そこで人と人との交流を促し、街と森のご縁を広げること。
③オオイチョウタケを通じて「食」から森林資源の可能性を発信し、キノコを含めた「森の恵み」で食育の促進と健康づくりに繋がって行くこと。
④特産化を進め、きのこの「菌」で、「金」を生み、山主さんやキノコ生産者の



「大相撲の力士のまげ=大銀杏」が名前の由来と言われているオオイチョウタケ

方へ利益を還元し、観光資源で利益増を狙うこと。

この4つの菌糸の繋がりを大切にしながら、社会的な「森の循環を広げる」ことを目的としています。

これらの取組を通じて、次代を担う子供たちが「森林」に対する興味を持てるよう、そして、職業の選択肢として「林業」の魅力を感じてもらえるよう、取組を継続していきたいと思えます。

●秩父森づくりの会(埼玉県)

当会は間伐材などの資源を搬出し、有効活用する仕組みの一つとして、森林を甦らせながら、間伐材を薪などの木質燃料として活用を進めるための活動を目的として発足しました。
実践活動の状況としては、①間伐等の育林作業及び森林ボランティアの育成、②木質資源の調達・供給



間伐&薪ひろい体験(都市部の人たちがノコギリで玉切り)



門川高校の林業体験

これまで、活動の「継続」と人と人との「つながり」を大切に活動してきています。

当グループは、平均年齢39歳で若手会員が増加しています。

主な活動としては、①下刈などの森林整備、②町の産業祭などの木工教室、③門川高校の林業体験学習に取り組んでいます。



山村景観の保全を目的とした「カヤ場の保全活動」



枝打ち体験（森が明るくなり、下層植生が活性化→森がよくなる）

③環境学習・イベント開催などに取り組んでいます。

また、新の販売を知的障害者支援施設にお願いし、販売代金の3割を施設に支払うなど、林福連携にも取り組んでいます。

当会は単に育林作業をするというだけでなく、森林の価値を高めつつ、環境のことも考える団体として、会員の人々と協力しながら発展していきたいと考えています。

動してきた結果、林研グループとしての活動の幅が確実に広がっています。今後も「継続」と「つながり」を意識しながら、地域の課題を少しでも改善できるように活動してまいります。



産業祭での木工教室の様子

保全活動などに取り組んでいます。

「琵琶湖水系全体の水源地」として、奥永源寺地域全体の活性化を実現することが、近畿1500万人の「命の源」に直結する取り組みなのだと思われ、この活動を絶やすことなく、将来世代に継承していきけるように、これからも取り組んでいきたいと考えています。

活動状況としては、①コウヨウザン（早生樹）並びに成長が良いことから「ボカスギ」の生育調査、広葉樹更新伐施業地における更新技術についての継続的な調査・研究、里山広葉樹林の積極的な利用を図るため、薪の生産販売などの里山再生への取り組み、②森林教室の開



市民参加型の伐採体験

●高岡地区林業研究グループ（富山県）

伐や企業の森づくり活動への支援など、市民参加型の森林管理に向けた取り組みなどを実施しています。

今後は、優良材の地域ブランド化、未利用材の木質バイオマス燃料利用などを進め、先人の長年の努力により蓄積されたボカスギを代表とする地域の豊かな森林資源を無駄なく活用し、後世にすばらしい森林を継承する先駆けとして、誇りを持って本グループの活動を行なっていききたいと思えます。



鈴鹿国定公園「鈴鹿10座」の環境保全活動

●東近江市永源寺林業研究グループ（滋賀県）

当グループは奥永源寺地域の「豊かな森林」によって育まれた「地域資源」を活用した「地域活性化活動」に挑戦してきました。

おもな活動内容としては、①林業遺産「木地師発祥の地」に関連した「歴史文化のガイドツアー」や「木工体験」などの開催による地域活性化の取組、②日本遺産「奥永源寺の山村景観」、「政所茶」の保全活動、③絶滅危惧種「紫草」の「種の保存」活動、④鈴鹿国定公園「鈴鹿10座」の環境



市民参加型の植樹体験

『森林施業プランナー』が各地で活躍！
『森林経営プランナー』も創設されました。



『森林施業プランナー』

- 地域において、小規模に分散している複数の森林所有者の林地をとりまとめて、間伐等の森林施業を効率的・効果的に行い、森林所有者への収益還元を実現する方法として取り組まれている「提案型集約化施業」を担う主役として、これまでに約2,500名が認定されました。
- 具体的には、森林所有者に対して、路網計画、間伐方法等の森林施業の方針、利用間伐等による事業収支等を示した施業提案書を作成・提示して施業を受託し、現場技術者への指示・発注・管理を行うまでの森林施業の集約化を実践するとともに、森林経営計画の作成を行います。

『認定経営プランナー』

- 戦後造成された人工林の過半が利用期を迎える中、需要を意識して、木材の有利販売事業を展開し、一方で、森林の持続経営や公益的機能の重要性に基づく、森林整備事業を地域においてバランスよく推進することができる者が求められており、これらを企画・実践する者を「森林経営プランナー」と位置付け、森林経営プランナー制度を創設し、67名を認定しました。

森林施業の提案



森林施業プランナー 森林所有者

森林の集約化



森林をまとめて、集約化することで搬出などにかかる経費を削減

- 森林施業プランナー協会 東京都千代田区鍛冶町1-9-16 TEL 03-6700-4757
- 森林施業プランナー協会サイト（HP） <https://shinrin-planner.com/>



後継者大会の会場となった多賀町中央公民館「多賀結いの森」

この大会は、昭和45年、全国植樹祭の前日に福島県猪苗代町において、「全国林業後継者のつどい」として開催したのが始まりです。これを契機に「全国植樹祭関連行事」として、各県で開催されるようになりました。

開会式典では、前田康弘第50回全国林業後継者大会滋賀県実行委員会会長の開会の言葉にはじまり、江島宏治滋賀県副知事、齋藤正全国林業研究グループ連絡協議会会長の主催者挨拶、久保久良多賀町長による歓迎の言葉、来賓の天羽隆林野庁長官、中山聡全国林業改良普及協会専務理事が祝辞を述べられました。



天羽林野庁長官の祝辞



齋藤全林研会長の挨拶



中山全林協専務の祝辞

「第50回全国林業後継者大会しが2022」が6月4日、滋賀県犬上郡多賀町の多賀町中央公民館「多賀結いの森」で開かれ、全国から林研グループ等林業関係者242人が参加しました。

(主催者) 滋賀県・多賀町・第50回全国林業後継者大会滋賀県実行委員会、全国林業研究グループ連絡協議会

第50回全国林業後継者大会 しが2022

多賀町産の木材を利用した後継者大会の会場

令和4年度 全林研通常総会を開催

令和4年3月11日、東京都渋谷区代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて、令和4年度全国林業研究グループ連絡協議会(全林研)の通常総会がオンラインと集合により開催されました。

会長挨拶に続き、来賓の木下仁林野庁研究指導課長、中山聡全国林業改良普及協会専務理事により祝辞をいただいた後、議事に入り、執行部提案の各議案について審議が行われ、全て原案通り承認されました。承認された全林研の令和3年度決算、4年度予算は別表のとおりです。

林野庁の木下課長にもご参加いただき開催



また、永年功労者に感謝状を贈るとともに、全国林業グループコンクール入賞グループの表彰を行いました。

全林研令和4年度予算

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

一般会計 (単位:円)			
科 目	当年度予算(A)	前年度予算(B)	増減(A-B)
1. 収入の部			
会 費	920,000	920,000	0
全林協助成金	1,000,000	1,000,000	0
事例集販売額	600,000	500,000	100,000
全林研グッズ販売額	3,500,000	3,500,000	0
広 告 料	280,000	280,000	0
雑 収 入	1,000	1,000	0
収入合計	6,301,000	6,201,000	100,000
2. 支出の部			
会 議 費	1,800,000	1,800,000	0
事業推進費	200,000	200,000	0
機関誌発行費	900,000	1,200,000	△300,000
事例集発行費	600,000	500,000	100,000
全林研グッズ制作費	3,500,000	3,500,000	0
緑の募金拠出金	50,000	50,000	0
事務局費	200,000	200,000	0
支出合計	7,250,000	7,450,000	△200,000
当期収支差額	△949,000	△1,249,000	300,000
前期繰越額	15,155,912	14,600,501	555,411
次期繰越額	14,206,912	13,351,501	855,411

特別会計(国庫補助金) (単位:円)

科 目	30年度予算(A)	前年度予算(B)	増減(A-B)
1. 収入の部			
収入合計	23,296,000	20,488,000	2,808,000
2. 支出の部			
支出合計	23,296,000	20,488,000	2,808,000

全林研令和3年度決算

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

一般会計 (単位:円)			
項 目	決算額	予算額	差引増減
1. 収入の部			
会 費	920,000	920,000	0
全林協助成金	1,000,000	1,000,000	0
事例集販売額	498,931	500,000	△1,069
全林研グッズ販売額	3,003,870	3,500,000	△496,130
広 告 料	280,000	280,000	0
雑 収 入	32	1,000	△968
収入合計	5,702,833	6,201,000	△498,167
2. 支出の部			
会 議 費	565,677	1,800,000	△1,234,323
事業推進費	264,604	200,000	64,604
機関誌発行費	181,786	1,200,000	△1,018,214
事例集発行費	550,673	500,000	50,673
全林研グッズ制作費	3,101,652	3,500,000	△398,348
緑の募金拠出金	0	50,000	△50,000
事務局費	483,030	200,000	283,030
支出合計	5,147,422	7,450,000	△2,302,578
当期収支差額	555,411	△1,249,000	1,804,411
前期繰越金	14,600,501	14,600,501	0
次期繰越額	15,155,912	13,351,501	1,804,411

特別会計(国庫補助金/未来の林業を支える林業後継者養成事業) (単位:円)

項 目	決算額	予算額	差引増減
1. 収入の部			
"未来の林業を支える林業後継者養成事業"	20,488,000	20,488,000	0
2. 支出の部			
"未来の林業を支える林業後継者養成事業"	20,488,000	20,488,000	0
「森林・林業に関心のある高校生・社会人等へ林業就業促進支援」	12,686,968	13,112,000	△425,032
Ⅱ 意欲ある林業グループ活動等への支援	4,301,032	3,701,000	600,032
Ⅲ 女性林業者等の定着支援	3,500,000	3,675,000	△175,000
支出合計	20,488,000	20,488,000	0



生活協同組合コープしがの濱均さんによる活動発表



東近江市永源寺林業研究グループの前川真司さんによる活動発表



一級建築士 宮村太設計工房 主宰の宮村太さんによる活動発表



森林環境学習「やまのこ」事業専任指導員の加藤みゆきさんによる活動発表



滋賀もりづくりアカデミー修了者による大会宣言

会を契機とし、これからの滋賀の森林・林業を担っていく者の一人として、森林の恩恵を受けるみんながつながることによって豊かな森林を守り育て、森林・林業の発展に取り組んでいくことをここに宣言します、との大会宣言がなされました。

続いて、第51回全国林業後継者大会岩手県実行委員会の齋藤眞琴会長から次期開催県の挨拶があり、第50回全国林業後継者大会滋賀県実行委員会の玉木副会長による閉会の言葉により幕を閉じました。

パネルディスカッション



メインプログラムの活動発表は、「森林に関わる活動を通して私たちができること」をテーマとして、森林環境学習「やまのこ」事業 専任指導員の加藤みゆきさん、一級建築士 宮村太設計工房 主宰の宮村太さん、東近江市永源寺林業研究グループの前川真司さん、生活協同組合コープしがの濱均さんがそれぞれの取組みを発表しました。

また、「みんなで豊かな森林を次世代に引き継いでいくために必要なこと」をテーマとして、滋賀県立大学環境科学部教授の高橋卓也さんをコーディネーターに、パネリストとして活動発表された4名と大滝山林組合の田中一則さん、滋賀県南部森林組合の八木典さん、森林所有者の横関隆幸さんが加わって、パネルディスカッションが行われ、それぞれ立場から豊かな森林を次世代に引き継ぐための活発な討論が行われました。

閉会式典では、滋賀もりづくりアカデミー修了者の数内 岳さんと川村奈々さんにより、「つなげよう未来に、「森―川―里―湖」のつながりを、琵琶湖と森の恵みを次世代へ」をテーマに開催した、この大

オープニング 近江猿楽多賀座による上演



WE LOVE forest.

森林を健全にはぐくみ、自然と人の暮らしが共存できるバランスの取れたあり方を未来の子供たちに向けて提案していくこと。これが山とともに歩んできた私た

皆様、こんにちは。石川県能登半島在住の全林研女性会議代表の坂本ちづるです。能登半島は自然豊かな土地です。ところが、年々その山の幸、海の幸など自然の恵みがとれなくなってきました。振り返ってみますと、ひと昔前までには考えられないような天候の異常や災害等の増加に気づかれます。では、こうした状況を地球温暖化のせいだと手をこまねいていてよいものなのでしょうか？ 地域で長年山に向き合ってきた私たち林研グループだからこそやれることがあるのではないのでしょうか？



副会長 坂本ちづる

森林を健全にはぐくみ、自然と人の暮らしが共存できるバランスの取れたあり方を未来の子供たちに向けて提案していくこと。これが山とともに歩んできた私た

初めまして全林研、常任理事・北海道の山口敏男と申します。私が常任理事になりました2期3年目でございます。今に至ってもまだ仕事が全部こなさきれていないと思っておりますが、私が抱えておりますことは各地におられるグループ員とのパイプ役になることです。今の時代『コロナ』真只中であります。会議はテレビ会議、大会もハイブリッドなどで、直接会う事も出来ずにおります。しかし、このことが新しい林研の始まりのような気がします。



常任理事 山口敏男

この役割といってもよいかもしれせん。私たち林研グループができることを考え、共に行動していきますましよう。次世代の子供たちのために。

日本は林業において、木を植林する民族である事に誇りを持ちこれからの活動に生かしていきたいと思っております。また女性ならではの声を届けたいと思います。

この度、執行部会へ入りました、早矢仕です。初めの事なので皆さまからご指導を頂きながら、色々な角度から、また俯瞰的に物事を見たり、考えたりと思っております。今、全世界は様々な問題を抱えています。特に環境問題は私達に直面していると考えます。活動を通して何ができるのかを考えると、色々な意見を聴いて、自分なりに勉強をすることだと、思っています。



常任理事 早矢仕恵子

しかしながら、1日も早く会員の皆様と直接会えることを祈って挨拶とします。

全林研執行部から



会長 齋藤 正

皆さん、こんにちは！ 私たちは、スローガンとして『林業・木材業を通じての地域創成の実現』を掲げ活動しております。コロナ禍で行動が制限されて、活動が思うように行かない現在、「不自由をチャンスに変える！」を念頭に事業展開を推進しております。情報伝達のあり方を変える、コミュニケーションの方法を改善する、新たな人材育成、組織の活性化などをこなしてまいります。「古きを守るために、新しきものを育てる！」これからも林研グループを宜しく願っています。



副会長 鈴木英元

静岡県静岡市内を流れる安倍川流域で、自社所有林と地域の方からの委託森林を管理・経営しています。この生まれ育った地域に戻り、家業を継いでから30年が経とうとしています。森林・林業経営への思いや考え方は、ここ10年ほど継続し続けてきたことありますが、変わってきたところもあります。現在のキーワードは、①多面的・多機能林業、②利用を前提とした管理の重要性、③人材育成と労働安全、④今後の森林管理と木材利用の変化、です。



副会長 黒田仁志

副会長を務めます宮崎の黒田です。社会も林業も大きな転換期に来ているようです。流れに乗り遅れないよう、林研活動も変わっていく時期でしょう。執行部も油断せず皆様方への情報発信に努めます。とりあえず、明るく楽しく皆で語り合える日が一日も早く迎えられることを祈りながら一人さみしく杯を傾けています。皆さんが主役です。会長がやせるくらい執行部一同こき使ってください。ほどほどに・・・

コロナ禍において、各種行事も制限を受け、全林研執行部が皆さまと対面で意見交換できる機会が少なくなっています。このことから「緑創」を全林研執行部からの情報発信の場として活用していきたいと考えており、その第一弾として、全林研執行部から活動方針や抱負についてお届けすることとしました。



全林研 Youtube チャンネルを
開設しています。チャンネル登録を
よろしくお願いします。



全林研 Facebook も
「いいね!」をよろしくお願いします。

全林研のホームページ「zenrinken.com」を開設します。

現在、全林研のホームページは全林協ホームページ内で運用していますが、自由に情報発信できる場として活用できるよう新たに「zenrinken.com」を作成しています。開設でき次第、お知らせします。

森林環境譲与税の使途等に関するアンケートについて

現場において、森林環境税の使途や林業を進める上で苦慮されている点等について、現場の生の声を把握した上で、全林研として何が出来るのかを検討し、提言として取りまとめ、関係機関等へ働きかけていきたいと考えており、まずは都道府県林研連の会長様にアンケートへのご協力をお願いしたところです。

お忙しいところ、アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

今後、いただいたアンケート結果を基に、提言として取りまとめていきたいと考えています。

令和4年度今後の行事予定

- **全国林業普及研修大会** ……令和5年11月30日(水)

場所：アルカディア市ヶ谷(私学会館)(東京都千代田区九段北)

- **全国林業グループコンクール・通常総会** ……令和5年3月2日(木)・3日(金)

場所：アルカディア市ヶ谷(私学会館)(東京都千代田区九段北)

※ 全国林業グループリーダー研修会、はつらつ林業女性交流会については、開催方法を検討中。



編集後記

「全国林業グループコンクール」や「全国林業後継者大会」の情報に加え、今回からは、本誌を全林研からの情報発信の場として活用できるよう、第一弾として、執行部からの情報をお届けすることとしました。

今後も誌面を活用した情報発信に努めたいと思いますので、よろしくお願いします。(事務局)

※お詫びと訂正 林業グループコンクール実施要領に「北陸・中部」ブロックと記載していましたが、正しくは「中部・北陸」ブロックでしたので、訂正してお詫び申し上げます。

林業経営「創意工夫」表彰行事のご案内

大日本山林会では、林業経営「創意工夫」表彰行事の募集を行います。ご応募お待ちしております。

1. 趣旨

林業経営の現場で役立つ技術的な発明、改良、創意工夫事案を考案した方を顕彰するものです。

2. 表彰の対象となる分野

森林造成から伐採・搬出まで、広範囲な分野が表彰の対象となります。

3. 参加申込方法

次のいずれかで申し込んでください。

- ①創意工夫等を考案した個人(団体)からの直接申請
- ②創意工夫等を考案した個人(団体)の関係者からの推薦

4. 審査・表彰

外部有識者で構成される「審査委員会」で審査を行い、3点以内に絞って大日本山林会会長が表彰します。

5. スケジュール

- ①参加申込の受付期間 令和4年9月1日～5年1月31日
- ②審査 令和5年2月～3月
- ③表彰(本会通常総会で表彰) 令和5年5～6月

現場の声を反映した林業用トラックの開発(令和3年度優秀賞)



奈良県吉野郡で行われた悪路走行用ダンプ開発の現場検討会
(ポロ・ビーシーエス株式会社森林部ほかが主催)



公益社団法人 大日本山林会

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13 三會堂ビル7階
TEL: 03-3587-2551 E-mail: sanrinkai@sanrinkai.or.jp

※応募方法等、詳しくは山林会ホームページをご覧ください。⇨ URL <http://www.sanrinkai.or.jp/>